

情報かわら版

9

2024

- ▷新潟県の畜産女子の取組を紹介！
こだわりの詰まった庭園カフェで家族が育てた豚肉をPR
- ▷アルビレックス新潟×小学生
生ごみでつくったたい肥で育てた野菜を収穫しました！
- ▷令和7年度農林水産予算概算要求の概要
- ▷学校給食用等政府備蓄米の無償交付に関する運用改善について
- ▷データで見る新潟県の集落営農

電子版はこちら



こだわりの詰まった
庭園カフェで
家族が育てた豚肉を
PR

04

新潟県の畜産女子の
取組を紹介します！

今回は、新潟市北区でガー
デンカフェかものはしを経営
する和田小百合さんにお話を
伺いました。
かものはしでは、小百合さ
んのご家族が育てた豚や地域
の農家さんの作った野菜・果
物を使ったお料理を提供して
おり、新潟市地産地消の店に
認定されています。

小百合さんは農業大学校で花きを専攻し、卒業後は飲食業に従事していました。日々の仕事の中で、一般に流通している食材を使った料理では生産者の顔が分かりにくいことに気づき、料理を通じて養豚農家である家族について知ってもらいたいとの思いから平成26年に「ガーデンカフェかものはし」をオープンしました。



ランチメニューのポークステーキには、家族が経営する(株)タケファームの肩ロースを使用しています。

野菜や果物は、農業大学校時代の友人や知り合いの農家さんが作った農作物=小百合さんが実際に食べておいしいと感じたものを使用しています。

小百合さんのこだわりはお料理だけでなくお庭にも。

自分のお店を開く前、北海道の観光農園にあるカフェで経験を積んでいました。そこで、北海道には庭を見ながら食事ができるお店が多いことに気づき、自分のお店でも同じような体験ができるようにしようと、1年かけて自分の庭を作り上げました。

庭づくりには、家族が経営する豚舎の堆肥や元々あった落ち葉を活用しました。農薬や化学肥料を使っていないため、四季折々の多様な生き物が庭を訪れるそうです。



庭の植物を使ったリース作りなど、カフェ内でイベントも行っています。取材に伺った時は、紫陽花のリースが飾られていました。そのほかにも、畜産女子会を通じて親子一緒に作れる料理イベントを開催したり、中学生の職場体験を受け入れたり、地域の食育活動に積極的に貢献しています。

家族が育てた豚のPRと、
愛されるカフェ作りを
頑張ります！

アルビレックス新潟の選手と小学生が 生ごみでつくったたい肥で育てた野菜を 収穫しました！

アルビレックス新潟では、児童・生徒並びにアルビレックス新潟の選手の人材育成・地域の魅力発信を目的に、新潟市南区と連携した農業体験教育「AGRIREX(アグリレックス)」を実施しています。

その一環として、8月21日(水)に、アルビレックス新潟の谷口海斗選手が、同区の白根北児童館を訪問し、児童館を利用する児童・南区内の小学生と一緒に敷地内にある畑でナスやミニトマト、ピーマンといった野菜の収穫を行いました。



▲アルビレックス新潟の谷口選手(右)と参加した児童

この野菜は、4月に段ボールコンポストで生ごみからたい肥をつくり、6月にそのたい肥を使った畑へ苗を植えて育てたものです。児童は一連の作業を通して、環境にやさしい農業を体験しました。



▲自分たちが育てた野菜を谷口選手と一緒に収穫しました！

(谷口選手)

おこがましいかもしれないが、自分がきっかけで、子供たちがサッカーや農業について興味を持ってくれたらと思います。今回の活動を通して子供たちには野菜への愛情など多くを感じてほしいです。



そして、 収穫した野菜は子ども食堂へ…

児童館で収穫された野菜は、「大通こども食堂もぐ」へ贈呈され、夕食として提供されました。

夕食では、収穫された野菜がチンジャオロース、枝豆ごはんといったメニューで提供され、参加した児童はとても美味しそうに食べていました。



▲提供されたメニュー

私たちは収穫も参加したから
よりおいしく感じたよ！



夕食後には、新潟市南区の職員から、市内8区のうち3番目にごみの排出量が多いとされる同区が行う、段ボールコンポストで生ごみからたい肥をつくることで、生ごみの削減を図る取組を説明し、今回の体験の感想を子どもたちに聞いていました。

一緒に参加した児童館の職員からも、「今日の夕ご飯をつくるときにでた枝豆の殻などの野菜くずは、また野菜が育つための栄養になるんだよ。」と丁寧に説明をしていました。

令和7年度農林水産予算概算要求の概要について

令和7年度農林水産関係予算の概算要求の概要が公表されました。

食料・農業・農村基本法の改正を踏まえ、食料安全保障の強化、環境と調和のとれた食料システムの確立、農業の持続的な発展、農村の振興等を図るため、農業の構造転換の実現に向けた施策を初動の5年間で集中的に実行するとともに、農林水産業の持続可能な成長を推進するための農林水産予算を要求し、総額で2兆6,389億円（前年度より約3,700億円増）となっています。

詳細は以下のURL又は右の二次元バーコードからご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/j/budget/r7yokyu.html>



学校給食用等政府備蓄米の無償交付に関する運用改善について

農林水産省では食育の一環として、こども食堂・こども宅食への政府備蓄米の無償交付を行っています。本制度をさらに利用しやすくし、食品アクセスの向上を図るため、以下2つの運用改善を行いました。

(1)各地域拠点における交付申請窓口の開設

これまで交付申請窓口について本省及び9か所の地方農政局等に設置していたところですが、加えて、都道府県の県庁所在地等にある地方農政局等の地域拠点51か所全てに窓口を開設し、地域のこども食堂・こども宅食からの申請・相談等に丁寧に対応します。

(2)交付申請の受付期間の通年化

これまでは四半期ごとに交付申請期間を定めていましたが、今後は通年で交付申請を受け付けることとします。これにより、切れ目なく政府備蓄米の交付ができるようになります。

詳細は以下のURL又は右の二次元バーコードからご確認ください。

https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/b_taisaku/240830.html



米粉の部屋

～料理に適した「米粉」を選びましょう！～

8月号で「サクサク米粉からあげ」のレシピをご紹介しました。

米粉には、料理や菓子に適したもの、パンや麺に適したものが選べるように「用途別基準」があり、用途と楽しみ方が広がってます！

平成30年1月から「1番：菓子・料理用」「2番：パン用」「3番：麺用」といった統一の用途表記を行う「米粉の用途別基準」を開始しました。日本米粉協会は、適合する製品に協会の「推奨マーク」を付与する仕組みを実施しています。



「からあげ」なら、「1番」がいいだね！米粉を購入するときに意識してみようかな！



詳しくはこちらをクリック ↓

<https://www.komeko.org/standard/> (外部リンク)

職員は「1番：菓子・料理用」を購入することが多く、その米粉で「天ぷら」「からあげ」「シチュー・カレー」などを作っているようです！
(新潟県拠点「米粉に関するアンケート」より)

購入した米粉の「用途別基準」は？

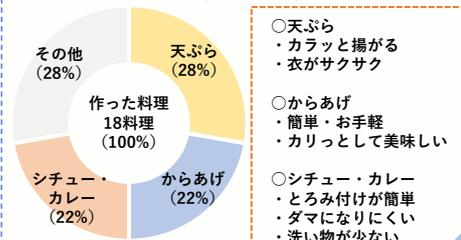
1番 (菓子・料理用)

2番 (パン用)

3番 (麺用)

0 5 10 15 (人)

「1番」と回答した職員が作った料理 (複数回答) と特徴



- 天ぷら
 - ・カラッと揚がる
 - ・衣がサクサク
- からあげ
 - ・簡単・お手軽
 - ・カリッとして美味しい
- シチュー・カレー
 - ・とろみ付けが簡単
 - ・ダマになりにくい
 - ・洗いが少ない

データで見る新潟県の集落営農

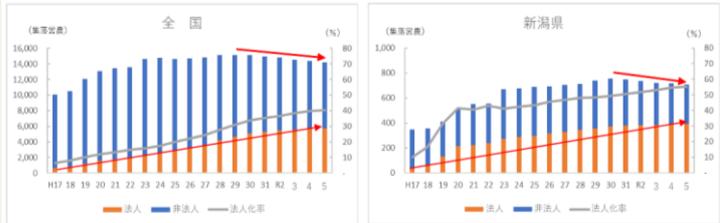
北陸農政局では、北陸地域における集落営農組織の労働力や農産物販売の状況など、経営実態に焦点をあてた分析を行い公表しています。

こちらでは、新潟県の集落営農の経営実態等について少しご紹介します。

集落営農数及び法人数（平成17年→令和5年）

○集落営農数は、品目横断的経営安定対策（平成19年度実施）以降、全国では平成29年、新潟県では平成30年をピークとして以降減少。

○集落営農の法人化は、全国、新潟県ともに進展。



注：集落営農実態調査は毎年2月1日現在による。ただし、平成17年及び18年は5月1日現在調査

資料：農林水産省統計部「集落営農実態調査」

農産物販売金額規模別集落営農数の構成割合（平成22年→令和2年）

○集落営農の農産物販売金額は、経営耕地面積が増加し、水稻や野菜などの作付が増加したことにより伸びている。

○中でも、1,000万円以上の割合は、新潟県を含め北陸管内各県いずれも増加。



注：グラフにおいて、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

資料：農林水産省統計部「集落営農実態調査及び農林業センサス」（組営集計）



詳細は以下のURL又は右の二次元バーコードからご確認ください。

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/index.html>

（編集後記）～収穫の秋 到来！～

収穫の秋となりました！まだまだ残暑が厳しいですが、みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

最近、職場の方にいただいた栗で栗ご飯を作ってみました！人生初の栗ご飯は、栗を剥くのが大変で少しボロボロになってしまいました（笑）

各地でも、収穫祭などイベントが開催されます。色んなところに出かけて行きたいものです。



お問い合わせ

北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「農業施策の〇〇について聞きたい。」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。

ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

